

息長古墳群

アマタビ古墳・日撫山古墳

顔戸山砦 1号墳

横山丘陵の南部を北東から南西に伸びる尾根上にある3つの古墳を紹介します。

アマタビ古墳は横山丘陵の最も南西端部に位置する尾根で近年確認された古墳です。造り出し部をもつ直径30m規模の円墳で、「アマタビ」とは、江戸時代の雨乞い神事に由来する小字名です。

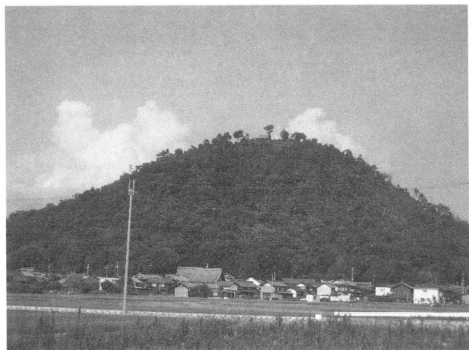
日撫山古墳は、アマタビ古墳の東方約100mのところにある長辺15m、短辺13m、高さ1mを測る平面長方形の古墳です。別名「朝妻古墳」^{あさづま}ともよばれ、かつと円筒埴輪が表面採集されたと伝えられていますが、明らかではありません。

顔戸山砦1号墳^{ごうどやまとりで}は、この尾根の最高所にあります。この古墳は、葺石^{ふきいし}を持ちませんが、分布調査によって円筒埴輪片が採集されています。また、名前が示すとおり中世の城郭として利用された遺跡で、中世陶磁器や茶臼^{ちうす}等が表面採集されています。古墳はもともとの形を大きく改変されているものと思われ、本来の規模などは明らかではありません。

アマタビ古墳

日撫山古墳

顔戸山砦 1号墳

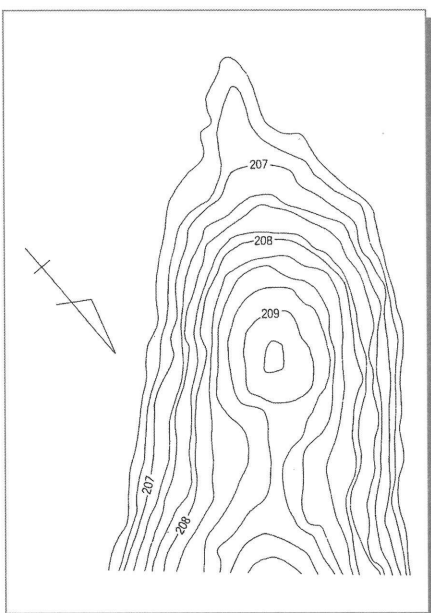
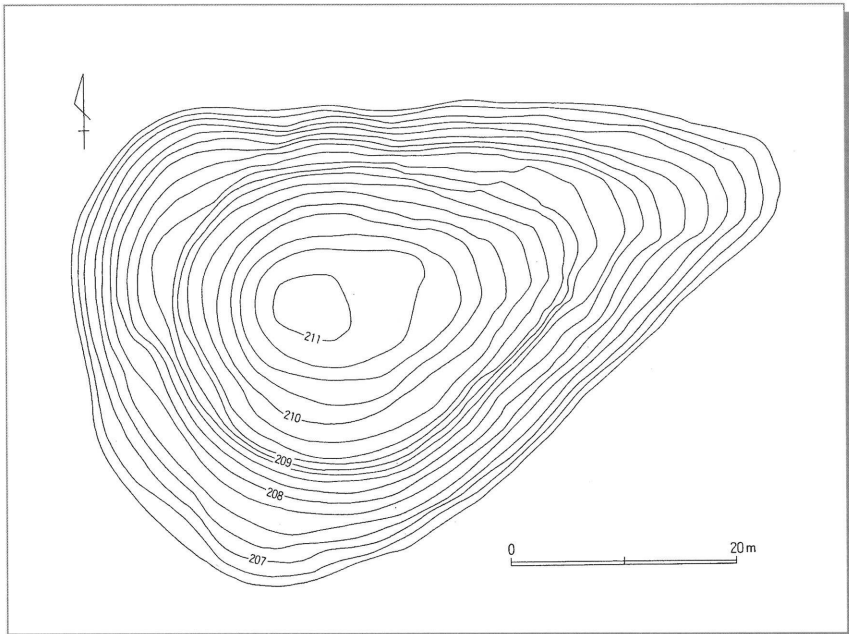


アマタビ古墳

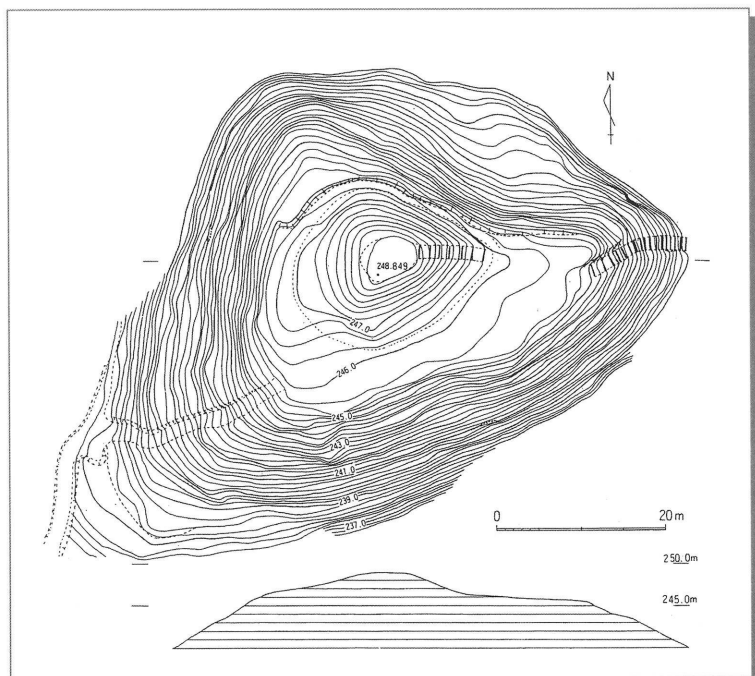
息長古墳群

長浜平野の東側を南北に伸びる横山丘陵の南端部から、天野川流域にかけて、古墳時代前期から後期に至るまでの長い期間築造の続いた息長古墳群が存在します。

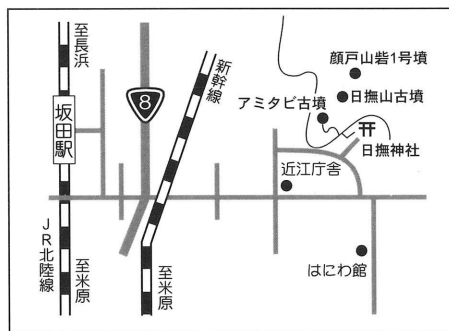
息長古墳群は、旧村名「息長村」(昭和30年まで存在)の名称からつけられたもので、前方後方形周溝墓「法勝寺SDX323」(3世紀前半)、円形低墳丘墓「西円寺第1号墓」(3世紀後半)、尾根上の前方後円墳「定納1号墳」(4世紀)、岩盤をくり抜いた墓壇をもつ円墳「奥深5号墳」(5世紀)、豊富な形象埴輪をもつ帆立貝形古墳「狐塚5号墳」(6世紀初頭)、周濠を備えた前方後円墳「塚の越古墳」(6世紀初頭)などに続き、横穴式石室を備え、豊富な副葬品を有するもっとも有力な前方後円墳「山津照神社古墳」(6世紀前半)が、この古墳群中「最後の前方後円墳」と評価されています。



日撫山古墳



顔戸山砦1号墳



アマタビ古墳・日撫山古墳・顔戸山砦1号墳

- 所在地 滋賀県米原市顔戸
- アクセス JR北陸線坂田駅下車。徒歩約20分で日撫神社へ。神社拝殿手前に登山道あり。(徒歩約30分)

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106
平成20年度 埋蔵文化財活用事業